

ウクライナ支援 若い力で

新潟で国際ロータリー研究会



若者の国際理解や親善について考える「国際ロータリー日本青少年交換研究會」の新潟会議が10日、新

潟市中央区のホテルで開幕した。10代の学生らがウクライナへの支援活動について報告し、海外交流の重要

ウクライナへの支援活動などが紹介された「国際ロータリー日本青少年交換研究會」の新潟会議は10日、新潟市中央区

性を訴えた。

国際ロータリーは1974年から毎年、15〜19歳の学生を海外に派遣するプログラムを行っている。会議はこの事業についてロータリーの会員が理解を深める場で、本県での開催は初めて。全国の会員ら約200人が出席した。

基調講演として登壇した右近いろはさん(18)は、大阪の高校に通っていた昨年5月、単身でポーランドに渡り、ウクライナ難民を支援するボランティア活動に参加。未就学の子どもたち

と遊んだり、書道や折り紙を教えたりした。

「父親を戦地に残し、母親たちは子どもと不安な日々を過ごしている。子どもたちを支えることで母親を少しでも安心させたい」と語り、8月に再びポーランドで活動すると宣言した。会議ではほかに分科会などを実施。11日に日程を終える。